

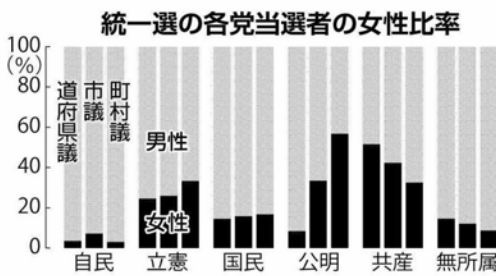
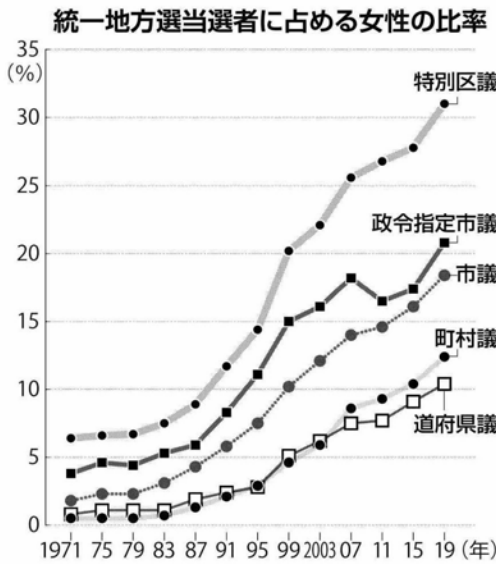
統一選 女性議員比率微増どまり

現職擁立重視が壁に

市民団体の「政治塾」に注目

統一地方選の各議会選挙で、女性当選者の比率が軒並み過去最高を更新した。ただ増加幅はわずかで、政党間のばらつきも大きく、動きも活発になっている。

総務省によると、統一選当選者の女性比率は道府県議10・4%（前回比1・3%増）、政令指定市議で20・8%（同3・4%増）、



市議18・4%（同2・3%増）、東京の特別区議31%（同3・2%増）、町村議12・4%（同2%増）で、いずれも過去最高だった。微増にとどまったのは、最も多く地方議員を抱える自民党で女性の擁立が進まなかったことが要因の一つだ。昨年成立した「政治分野の男女共同参画推進法」は、地方選でも政党に候補者数を男女均等にすることを求めている。自民は現職議員を優先する傾向が強いこともあって男性偏重が是正されず、当選した道府県議や市議の女性は1割未満だった。

立憲民主党は道府県議と市議で2割、町村議で3割を超えた。公明党の町村議と、共産党の道府県議と政令市議は5割以上となった。国民民主党は道府県議などで1割台。市議や町村議の多くを占める無所属も1割程度だった。

政党の動きがなかなか進まない中、独自に候補者を

発掘する動きが活発化し始めている。昨年から女性向け政治塾を開講している「パリテ・アカデミー」（東京）では、3回に延べ60人が参加。統一選に4人が挑戦して室蘭市議を含む3人が当選し、参院選にも2人出馬予定だ。

22日の講座で元市議らと対話した東京都のダンサー権田菜美さん(35)は「政治家は怪しいイメージがあったが、社会を変えるやりがいのある仕事だと思った」と語った。

福岡市の市民団体「福岡・女性議員を増やす会」も昨年、政治塾を開催し17人が当選した。今年も6月から開講予定で、早くも問い合わせがあるという。代表を務める福岡大非常勤講師の富永桂子さん(74)は「女性が政治を変えないといけないという意識が広がっている。各地でこのような活動がもっと活発になってほしい」と語った。

（津田祐慈）

選定過程透明化を

「パリテ・アカデミー」の共同代表を務める上智大の三浦まり教授（現代日本政治論）の話。「政治分野の男女共同参画推進法」が追い風となって女性議員が増えたのは良かったが、まだまだ足りない。男性ばかり



りの議会では子育てや女性の健康など多様化する住民ニーズをすくいきれない。地域差も広がっており、東京都内は女性議員比率が3割、4割を超える議会が珍しくない一方、道府県議会は約1割で伸び幅も小さかった。各党は地方組織にさらなる擁立を求めるべきで、現職優先をやめ、予備選などを通じ選定過程を透明化すれば、議会への関心も高まる。投票率向上や議員のなり手不足対策にもつながるだろう。